

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045 (661) 0166

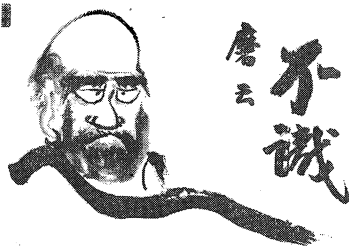
有終の美を飾らん

為無則一為無不治

会長 志村 慎 吾

去る六月十二日私は毎歳恒例で催されております金沢区の積尊奏讚会仏跡史跡参詣団の一員として観光バスにて千葉市方面へ早朝から行脚に出向いております。同行の和尚さんから丁度千葉市内の千葉寺に着いた所、六時のラジオのニュースで「今朝五時大平総理が病状急変して、亡くなったそうですよ」と聞かされました。行脚の旅行中でしたので一時はさほど気にもいたしませんでしたが、衆参選挙の真只中で一党の総裁としての大平さんの逝去は大変な番狂わになるのではないかと、つい四五日前迄は横浜市内にも来られて熱弁を振るい自民党勢力の拡大を許しておつたのに、さぞやご本人は無念に思っておられることだろうとつくづく世の無常を想い、ひとり現職の総理大臣大平正芳さんの胸中をお察し申し上げて追悼の意を表しご冥福をお祈り申上げておつたのでした。

翌日、六月十三日の「天声人語」(朝日新聞)欄によると、大平首相はいつもこんなことを云っておられたそうだが、「人間なんて弱いものだよ。力りきんでもしようがない。たんだんと平常心でやればよい」と。大平さんは学生時代から好んで書を読んだ方なので日頃の会話の中にも、「たんだんと平常心でやれ



不誠
 唐云
 室龍楓堂 題
 庚申 季夏

に無為をやらせ得ずしその志は半ばにして在任わずかに一年半で地に還つて行く大平正芳さんの死にざまはまたたんだんとしており、また、かえって美しくいと私には思はれます。住友金属工業株式会社の部長さん倉田一良さんの著書に「鉄仏の旅」と云う一書がございます。

奈良に生まれて育ち少年時代から白鳳、天平の仏様とは身近かに接し乍ら暮らしておられた。四歳の時お父さんを亡い、信仰の篤いお母さんにつれられてよくお墓詣りや二月堂の観音様へお詣りしたと云はれます。この幼少の頃からのお寺詣りがいつか倉田さんご自身の中に心の温くもりと安心の場処となりこれがお仕事と結びついて「鉄仏の参詣行脚」をはじめられたと申しておられます。鉄仏と云うのは国家権力に庇護された体制側の大寺や肉山に在るものではなく、山村僻地の観音堂や薬師堂や堂守りさえいない草庵に祀られていてそこにかえって素朴で、ぬくもりを感じられるのでたまらなくなつて「鉄仏の行脚」を発心したのでしよう。その「鉄仏の旅」の序文には、「生きている鉄は限りなく強く、たくましい。その鉄は錆びて朽ち果てて土に還る。強きが故に朽ちて土に還るがゆえに、鉄は優しい。だから鉄には魂が宿る」と倉田さんは申されておられます。

強きがゆえに朽ち果てて、土に還る。
 私はこの言葉に魅せられます。大平首相も何を訪はれても「アール」と云つておられました。がなかなか心棒は剛毅の方の様でした。「人間は弱いものだよ、力んでもしようがない、たんだんと平常心でやればよい」と云いつたんだんと土に還つていったその死ざまが優しくていい。
 私も三期六ヶ年と云う長期間本

会の重役を汚し、たんだんとして今土に還らんとしております。人意を用いざるところを有終の美と飾り、風流ならざるところ也風流またと自らきめて行きたく存じおる次第です。
 よろしくご後援をお願い申上げます。
 (金龍禅院住職)

暑中見舞

横浜市仏教連合会

- | | |
|---------|--------|
| 名誉会長 | 乙川 瑾 英 |
| 参 与 | 柴田 敏 夫 |
| 会 長 | 志村 慎 吾 |
| 副会長 | 福永 隆 昭 |
| 副会長 | 横山 敏 明 |
| 会 計 | 森山 正 城 |
| 専務理事 | 玄野 孝 善 |
| 墓地専門委員長 | 佐藤 壽 応 |
| 税務研究委員長 | 友繁 禅 弘 |
| 監 事 | 赫多 正 圓 |
| 監 事 | 鷹巢 道 孝 |
| 他役員 | 一 同 |

市仏連第七回定期総会開く 釈尊奉讃会強力提携を期し

本会第七回定期総会は五十五年五月一日午後一時より、事務所中區大平町西有寺を会場に開催された。今回は市釈尊奉讃会総会も同日行なわれ、参加者一同の熱心な協議が続けられた。

総会は横山副会長の開会の辞に始まり、志村会長による物故会員追悼の黙禱と挨拶に次いで、議長に田島海義保土ヶ谷区仏会長副議長に渡辺源証西区仏副会長を選出して議事に入った。

▽第一議案 五十四年度事業報告
市釈尊奉讃会より説明、各役員会と税務墓地両委員会の活動状況、会報発行、涅槃会講演会と東南アジア難民



救援募金実施、市釈尊奉讃会設立準備、発会経過、各区仏花まつり行事状況、県仏との提携、顧問弁護士委嘱等を報告し、承認された。

▽第二議案 五十四年度決算森山会計より別表の通り説明、赫田・鷹巣両監事の監査報告があつて承

認を得た。

▽第三議案 五十五年度事業計画涅槃会等主催行事、奉讃会・県仏等参加提携事項共、ほぼ前年同様とし、五十六年二月の涅槃会会場は戸塚区吉田町真言宗宝蔵院に決定を報告し、承認された。

▽第四議案 五十五年度予算

別表の通り承認された。
昨秋釈尊奉讃会が発足により、今後市仏と奉讃会が連携を一層密にして、全一仏教運動を強力に推進するために、先ず同会会員倍増するなどの、後援の方途につき活発な意見が交され、市仏連全寺院に奉讃会員獲得のため一層の協力

を依頼することを確認し、議事を終了した。

続いて来賓、貝山県仏会長、乙川本会名誉会長(代理)、山本県仏青事務局長等の祝辞があり、更に今回市仏連の顧問弁護士を委嘱された遠藤隆也氏(東京都台東区東

一、宗教法人税務及び実務研究会成功裡に終わる——
昨年十一月七日、市仏税務委員会は、県私学宗教課と共催し、中区西有寺におきまして宗教法人の税務及び実務についての研修会を開催いたしました。

お蔭さまで市内多数の御寺院方の御参加を頂きましたが席上、先づ市仏税務委員斎藤隆法師から寺院経営に必要な税務一般について

市仏税務委員会から

税務研究委員長 友 繁 禪 弘

講義を受けました。
続いて県私学宗教課課長補佐加藤守氏が宗教法人法について解説、同法は「役員」「財産管理」「公告」の三制度が骨子であること、宗教法人は、この三つの制度を遵守して運営されなければならぬこと、等の点について寺院経営者の自覚を促しました。
このあと、出席者と講師間で真剣な質疑応答が交わされ、皆様から同会は非常に有益な研修会であったとの評価を頂いた次第です。
御承知のように、宗教法人は、税金面で非課税という大きな恩恵が与えられております。しかしこの恩恵は、宗教法人法にうたわれている。法人を預る者の義務が誠実に履行されてはじめて浴するこ

上野二一八一七共同ビル(上野五F一五一五、電話〇三三八三二一八一九、自宅神奈川区白幡電話〇四五四三二六一九二)を紹介、挨拶の後、盛会のうちに開会した。

とができる恩恵ではないでしょうか。私達寺院経営者は、このことを十分踏まえた上で、これからも宗教法人の税務又は実務につき、なお一層研さんを積む必要があると存じます。

及ばずながら市仏税務委員会は、今後も皆様のよき相談相手となり、又有益な企画を考えて会員皆様のお役に立ちたいと念じております。御協力の程をお願いする

次第であります。

なお、研修会の出席者総数は五一名でありましたが各区ごとの内訳は次のとおりです。
(鶴見区)3、神奈川区4、西区6、中区5、南区8、港南区2、保土ヶ谷区0、旭区0、磯子区2、金沢区6、港北区2、緑区4、戸塚区7、瀬谷区2)
二、最近の情報から
(一)税務署が経理書類の提出求める
最近横浜市内のある税務署は、管轄内の若干の寺院に対して経理書類の提出を求めてきました。いづれも申告した税額の裏づけを取るためですが、税務署が寺院に対してこのような行為に及んだのはあまり前例のないことでありま

す。しかしこのたびの措置が他の税務署へ波及するおそれは十分考えられますので、各寺院におかれましては、その時になって慌てないためにも日頃から経理書類の適正を期しておく必要があると存じます。

(二)墓地料が課税対象に——
宗教法人の墓地料がその公益性から考えても非課税であることは当然です。しかし全日仏からの情報によりますと最近税務署内にこの墓地料に税金をかけようとする動きがあるというのであります。本来墓地の貸付(永代使用)そのものは宗教活動の一環です。その故に寺院の収益事業にも該当しないわけでありますが、ただ、これがいわゆる墓園型式で大きかりになった場合どうなのか、その場合にも営利性は介在しないと言いつけるのか、というところに税務署の着眼点があるように推察されます。

従って、これが課税対象になるか否かは税務署の判断によるケースバイケースで、通常の場合(大がかりでない)の墓地料にまで及ぶことは先づなからうと考えられます。

(三)むすび
以上二つの例からも推し計られますように公益法人であるが故に従来から寛大に扱われていた寺院であります。税務署内に除々にこれにメスを入れようとする空気があることは否めないようです。もとより私達は、税務署のこのような措置を拒否することはできません。従いまして税務署がいつ、いかなる挙に出ようとしても、私達は常に公益法人を預る者として、自他に恥ない心構えをもって、寺院経営に努めることが肝要であると存じます。

第五回釈尊涅槃会

日吉 金蔵寺に集う

横浜駅から東横線で約十五分、日吉駅がある。駅前には繁華街であるが緑はまだ多く残っている。

駅から約十五分歩くと天台宗金蔵寺がある。本堂はどっしりとして今日までの古い歴史がうかがえる。ここが本日、涅槃会を催す会場である。市仏教連合会と市釈尊奉賛会では、一人でも多くの皆さんに参加をいただきたいと金蔵寺さんには大変ご協力を願ったところ

正午過ぎには、広い本堂も満員となり、市仏連会長志村慎吾老師の導師のもと全区より僧侶が参列、観音経を誦誦し、おごそかに法要を終了した。

そして、善男善女のたいた馨わしいお焼香の香りのただよう中で市仏連副会長福永隆昭老師司会のもと、講師「内藤泰子」女史が紹介され約九十分、カンボジアから生還されたその体験と、平和のありがたさ、命の尊さなどについて講演が催され、そのご苦労に会場ではため息がもれていた。

市仏連では、講演にそなえ会場に何枚ものパネル写真をはり難民の実態を理解していただき、その救済活動にご協力をよびかけた。

一方仏教会としても十万円を捻出し、本日皆さんにご協力願った救済金と合せて、全日仏を通して難民のかたがたに贈らせていただいた。「どうか難民のみなさんに一日も早く平和なそして幸せな日

が来ることを願って。」

ご協力いただきましたかたには厚く御礼申しあげます。ではここ内藤泰子女史の講演を紹介しよう。

記念講演

「動乱のカンボジアから生還して」

内藤 泰子

解放という素晴らしい名のもとに私は、四年間動乱の渦に巻かれてしまいました。それは、一九七五年の四月十七日でした。それまでは平生の都市も急に危険になり私達親子四人は郊外へと避難しました。それはカンボジアのお正月でありましたが、ロケット弾が飛びかき放送も停止され町には戦車が行き回りすさまじい光景です。私の主人は、ここも危ないから他へ避難しよう、または移動することをしました。その途中泣き叫ぶ人、怪我で出血しながら歩いている人、産気づいて道ばたでお産をしている人もありました。途中私たちは外国人です、日本人ですから国へ帰して下さいとポルポト兵に何度もたのみ、パスポートを見せましたが、文盲の彼らにはなにも役立たず、現地人と行動をとともにするほかありませんでした。夜は野宿し昼間は歩いて、あるときは軍用トラックに乗せられ

て、つれてこられたところが「ウドン」という山でした。そこでは貨幣は全く通用できなくなり発狂して一家心中するものさえ出ました。

さて、この「ウドン」山はうどんの産地で、日本の「うどん」はここから来たという由来があります。私たちはウドン山の寺院に宿泊したのですが驚いたことに、全部の仏像の首がありませんでした。後で分ったことなのですが、宗教は何一つゆるさず廃止されてしまったのです。ひどい生活で私しの

長男は病気になるなり亡くなりました。そこは医者も、薬もなごどうすることもできなかったのです。そこに私は墓を建て再び移動の旅に出発しました。何日も歩き、ようやくついた一つの村では食糧は配給となり、米一日三合に塩小さじ一杯が家族単位で配られ、家族の多い人はどうやって食べたら良いか考え込んでしまいました。

私は、そこで村長に会い何度もお願いしてみました、受け入れてもらえ、人間は誠意をもって事をなせば人類は異つても心は通ずるものだと、そのときよくわかりました。

私たちは、そこで家を建てることにして、木を切り柱をたて、パパイアという高い木の葉をとって屋根をふきました。もう少しで完成というとき、次男が木から落ち、痛いよ、と泣きながら十日後に亡

くなつてしまいました。病院も医者も薬もありませんでした。現地では伝染病をおそれて体温のあるうちに埋葬されてしまいました。

その後、約三週間して再び移動がはじまり、牛車や軍用トラックに乗せられジャングルの中へとつれてゆかれました。

そこは密林で、手持ち道具は果



(講演する内藤泰子さん)

物ナイフ一本しかない私にどうしてこのジャングルが切り開けましたか。私は主人と二人で努力しましたが、主人は無理をして体調を壊して寝込んでしまいました。ある、月のきれいな晩、よわりきった主人を見て、いっそうこの果物ナイフで主人の首をひとつきして自分も死のうと、よく研いたナイフをかざしたところ、だれかにその手を押えられてしまいどうすることもできなくなつた。おぼろげに思い出すと、主人は目をさまして「死んではいけない、命あるかぎり生きろんだよ。そしてお前は

我々の供養をしてくれ。」といひのこしてこの世を去つてゆきました。

たった一人の私はやせこけ髪は白くなり五十才以上の人にふけんでしまいました。食糧事情はますます悪くなり木の葉を見ても食べなくなるようでした。昼間は重労働をしいられ、夜は大虐殺があるとのことで、おちおち寝むることもできませんでした。私はそこで会う人に手紙を書いては渡しました。幸せなことにその一通が大使館にとどき、命びろいをして、やっと日本に帰ることができたのです。

日本に来ると、しばらくは日本はいいところだな、平和とはいいののだ、とつくづく感じました。しかし今の日本は平和にひたりすぎているように思えます。カンボジアは平和な国で、ベトナムが戦争をしても他人ごとと思つておりましたが、突然このような戦争にまきこまれたため多数の死者を出してしまいました。

現在の日本をみていますと、ちょうど「カンボジア」に似ているように思えます。イデオロギーの恐さというものを皆さんしっかり勉強しておいていただきとうござります。そして人の命の尊さを大切に、今のこの平和を一日も長く保つにはどうしたらよいか、政治は政治家だけのものではない皆さん一人一人よく考えていただきとうござります。最後にカンボジアで今でも苦しんでいる人たちに一日も早く平和が来るようにお願いのり申しあげて、私のお話しを終らせていただきます。

昏迷に一灯を点ずる

願いを寵めて

横浜市釈尊奉讃会長

宇野忠夫

皆様、私共の大切な孟蘭盆会の季節がまいりました。

この間までは、梅雨空のもと巷を行き交う宣伝カーの流す声で明け暮れた日々でしたが、漸やく解放されて、わが家におきましても深い翠りに囲まれた中で、しみじみと先祖のこと、親しかった亡き友達のこと等想い浮べ、今年も感謝のうちに供養のお参りをさせて頂くわけでありませう。

さて、昨秋、市仏教連合会のお肝入りで、横浜市釈尊奉讃会が創られたことは、高承の通りであるかと存じます。本会の綱領は「僧・俗力を合わせ、釈尊の教えに帰依し、只今、この生活をささえて下さった、目には見えない大きな力に感謝して、よい人生をきつぎ、世相の昏迷に一灯を点ずる」ということであります。

今や世を挙げて、内外共に、混沌と逸脱のうちに迎えた八十年代にあたって、国際港都横浜の市民が仏教徒としてお互に相携えて生きるべき途を示して頂いたわけ、まことに有難い実践団体であると存じます。

わが奉讃会の本年度事業計画も既に去る五月の総会で策定されました。この際ぜひ多数の会員のご加入を頂いて、本会の組織を強化

して事業活動を力強く遂行してまいりたいものと念願して己まないものであります。

このためには、市仏教連合会のご関係の各位のご高配を一層頂かねばなりませんので、ご諒察の上何とぞよろしくお願い申し上げます。皆様、ベネチア・サミットも終

お礼とお願い

発足して半歳をすぎて

横浜市釈尊奉讃会事務局長 滝田東潤

「私達は僧、俗力を合わせ、釈尊の教えに帰依し……世相の昏迷に一灯を点ずる……」いつよんでも、私たちの胸に迫るものを感じずこの綱領をふまえて、スタートして九ヶ月、幾つかの不安も市仏連及び奉讃会員の皆様にささえられて解決し、今や会員数三百五十五人をおかげで、今年各各区ごとにさらに十人は増員したいという希望にもえております。しかしこれはどうしても、さらに市仏連および奉讃会員の皆様のお力に頼る他はありませぬ。本会はまだその組織力も弱く、歴史も浅いため会費をいたたくのも容易ではありません。例えば今年度の会費も集まり

り、われらの生活も世界的秩序で調整されてゆくわけですが、力と物に追いつめられたと感ずるとき、何と疲れと不安にかられることでしょう。然し、一度広大無辺な釈尊のみ尊さを思うとき自ずと前途は光りに照らされます。

さて、先日、高野山参拝の折認めました私の拙ない一詩を附して結びとさせて頂きます。

詣高野山有感
高峯幽谷拒入連
靈域寂靜千古森
深更醒懷大師行
廟前石楠花紅鮮 (以上)

がよろしくないのです。事務局の怠慢と反省しておりますが、どうか皆様方、とくに会員をおもちのご住職様におねがいします。例えばあるお寺では、寺関係の会員数をまとめて一括し、会費をたてかえ納入して下さいました。こうしていただければ誠にありがたいと存じます。郵便振替用紙も用意してありますが、お一人づつですと事務的にも経費の点でも大変ですのでお寺ごとにおまといいただければ幸です。会員募集も、お盆などご利用下さり、本堂や山門等にPRの文などお出しただけならと存じます。奉讃会予算決算、行事等については別に掲げましたので、

奉讃会総会おわる

行事報告、計画、予算等可決

去る五十五年五月一日、横浜市釈尊奉讃会総会が中区大平町西有寺において午後二時、市仏連総会にひきつづいて開かれた。この日荻正義氏の開会のことばにはじまり、会長宇野忠夫氏のおあいさつのち議事に入った。議長は福永隆

金沢区釈尊奉讃会さかん

54・9・9 仏教文化講座、龍華寺にて、区仏と共催、二百余人
54・11・3 交通事故物故者追悼会、交通安全祈願祭 於薬王寺
55・2・25 第二十四回涅槃会法要 於持明院 参列者二五〇名
55・4・6 第三十四回釈尊降誕奉祝花まつり二八〇名行列して 光伝寺から泥牛庵まで
55・6・12 定例参拝バス旅行

区別奉讃会会員数及び会費納入状況

(昭和55年3月現在)

区	54年度 会費納入 人数	55年 度 人数	56年 度 人数	57年 度 人数	計
見川	4	4	3		11
鶴神奈	27	27			54
西中南	82	82	3	3	173
南谷	14	14			28
港保	34	33			67
土旭	12	12			24
子次北	10	10			20
磯金港	8	8			16
緑塚	1	1	13		15
塚谷	48	40			88
戸瀨	26	25			51
不	24	24			48
明	49	10			59
計	5	2			7
計	355人	341人	19	3	721

ご一覽の上、御高見を事務局までお寄せ下さいますよう、おねがいいたします。

コース、千葉寺―木更寺高倉寺―証城寺
目をみはる活動である。これらは区仏教会等との緊密な連絡のもとに行われている。
(小西順光師提供)
講師及び演題は、東京福成寺住職西尾詔寿師「浄土の次の間」
イラストレーター、漫画家柳原良平氏「船旅と世界の港町ヨコハマ」

昭和54年度横浜市釈尊奉讃会会計決算書

昭和55年度横浜市釈尊奉讃会予算書

総括表	歳入金	834,631円
	歳出金	834,631円
	差引額	0円

総括表	歳入金	810,981円
	歳出金	810,981円
	差引額	0円

(昭和54年10月13日～昭和55年3月31日)

(昭和55年4月1日～昭和56年3月31日)

科 目	予算額	決算額	差引残額
1. 入会金	355,000	355,000	0
2. 会費	366,000	366,000	0
3. 寄附金	90,000	90,000	0
4. 繰入金	23,000	23,000	0
5. 雑収入	631	631	0
計	834,631	834,631	0

科 目	予算額	決算額	差引残額
1. 事業費	563,050	563,050	0
1. 大会費	173,050	173,050	0
2. 念品	40,000	40,000	0
3. 記念品	350,000	350,000	0
2. 必要費	66,600	66,600	0
1. 事務費	14,140	14,140	0
2. 印刷費	23,000	23,000	0
3. 通信費	7,860	7,860	0
4. 交通費	21,600	21,600	0
3. 繰越金	204,981	204,981	0
1. 繰越金	204,981	204,981	0
計	834,631	834,631	0

科 目	前年度予算	本年度予算	差引増減
1. 会費		455,000	
2. 入会金		100,000	
3. 寄附金		50,000	
4. 雑収入		1,000	
5. 繰入金		204,981	
計		810,981	

科 目	前年度予算	本年度予算	差引増減
1. 事務費		344,000	
1. 会議費		100,000	
2. 消耗品		40,000	
3. 事務所費		24,000	
4. 印刷費		100,000	
5. 通信費		50,000	
6. 搬入費		20,000	
7. 雑費		10,000	
2. 事業費		430,000	
1. 企画費		50,000	
2. 文化座		300,000	
3. 涅槃会		50,000	
4. 雑費		30,000	
3. 予備費		36,981	
計		810,981	

上記の通り精算いたしました。

昭和55年 3 月 31 日

事務局長 龍田 潤
 会 計 藤江 正
 程 木 邦
 荻 木 徳
 荻 木 義

監査委員

昭和55年度決算に係る諸証精査致しました。処正確である事を認めます。

金子 正
 加藤 久

昭和55年 5 月 1 日

上記のとおり収支決算書を提出致します。

横浜市釈尊奉讃会会長 宇野 忠 夫

昭和55年 5 月 1 日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出いたします。

横浜市釈尊奉讃会会長 宇野 忠 夫

55. 4. 25	55. 3. 8	55. 2. 16	55. 2. 5	55. 1. 28	54. 12. 4	54. 12. 11	54. 11. 29	54. 11. 8	54. 10. 13	54. 10. 11	54. 9. 10	54. 8. 31	54. 8. 3	54. 8. 3	
○総会準備	理事会 於西有寺	会計監査 於福聚寺	と協賛 於金蔵寺	涅槃会法要 於西有寺	市仏連との合同理事 於西有寺	て	○涅槃会運営について	○総会會計報告	○総会會計報告	○役員承認	○記念講演 佐々木 久子女史「ゼロでも 花は開きます」	○創立宣言法要 午後一時	○創立宣言法要	○役員承認	○記念講演 佐々木 久子女史「ゼロでも 花は開きます」

55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	55. 5. 1	
○総会準備	理事会 於西有寺	会計監査 於福聚寺	と協賛 於金蔵寺	涅槃会法要 於西有寺	市仏連との合同理事 於西有寺	て	○涅槃会運営について	○総会會計報告	○総会會計報告	○役員承認	○記念講演 佐々木 久子女史「ゼロでも 花は開きます」	○創立宣言法要 午後一時	○創立宣言法要	○役員承認	○記念講演 佐々木 久子女史「ゼロでも 花は開きます」

54年度奉讃会行事報告
創立準備役員会 於西有寺
同 於東林寺
同 於西有寺
会則原案審議 各役
職候補の内定 於西有寺
同 於西有寺
総会準備
横浜市釈尊奉讃会創
立総会 於西有寺

55年度奉讃会行事計画
55. 5. 1 第二回定例総会 (実施) 於西有寺
55. 5. 11 仏教文化講演会を西有寺で開く予定
右のほか役員会、理事会を五回程度開くこと、会員数増強のため、各区十名以上の会員増加をはかること等、協賛行事としては市仏連会報に協力、市仏連涅槃会に協賛等

日吉、大聖院多田厚隆師、平泉中尊寺眞主に栄転される「毒舌和尚」の異名の今東光大僧正のなきあとに、箕輪町大聖院住職多田厚隆師が着任された。師は天台学の研究に没頭され「摩訶止観」を初めて完訳された。大正大学教授として昭和二十一年から三十年間教鞭をとられ、現在は同大学の名誉教授である。「止観は何度読んでも新しい。読むたびに真実の姿にふれていくような気がする。そこへ行くとき現代人は本当の自分を偽っている」といわれる。息子さん二人も同大教授、「堅い人、厳しい師です。」とい

55. 5. 1 第二回奉讃会総会 於西有寺
○54年度事業報告
○54年度決算報告
○54年度会計監査報告
○55年度行事計画
○55年度予算審議

昭和54年度収支決算書

総括表 { 歳入金 1,233,733円
歳出金 1,213,634円
差引額 20,099円

(自昭和54年4月1日～至昭和55年3月31日)

昭和55年度歳入歳出予算

総括表 { 歳入金 793,099円
歳出金 793,099円
差引額 0円

(自昭和55年4月1日～至昭和56年3月31日)

収 入 の 部			
科 目	予算額	決算額	増 減△
① 会 費 収 入	413,000	413,000	0
1. 会 費	413,000	413,000	0
鶴見区	37,000	37,000	0
神奈川区	30,000	30,000	0
港北区	57,000	57,000	0
緑区	40,000	40,000	0
西区	28,000	28,000	0
中区	23,000	23,000	0
保土ヶ谷・旭区	28,000	28,000	0
南・港南区	57,000	57,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
金沢区	26,000	26,000	0
戸塚区	60,000	60,000	0
瀬谷区	8,000	8,000	0
② 雑 部 金	284,000	712,974	428,974
1. 雑 入 金	50,000	108,000	58,000
2. 寄附金及繰入金	234,000	604,974	370,974
③ 過年度収入金		0	
1. 会 費		0	
④ 前年度繰越金	107,759	107,759	
1. 前年度繰越金	107,759	107,759	
収 入 合 計	804,759	1,233,733	428,974
支 出 の 部			
科 目	予算額	決算額	増 減△
① 総 務 費	180,000	212,400	△ 32,400
1. 事務所費	50,000	50,000	0
2. 事務渉外費	30,000	0	30,000
3. 通信交通費	100,000	162,400	△ 62,400
② 雪 要 費	140,000	175,000	△ 35,000
1. 会議費	100,000	95,000	5,000
2. 慶弔費	40,000	80,000	△ 40,000
③ 事 業 費	360,000	762,260	△ 402,260
1. 税務墓地委員会	30,000	0	30,000
2. 涅槃法要費	100,000	382,260	△ 282,260
3. 仏教講座開講費	100,000	100,000	0
4. 会報発刊費	130,000	168,000	△ 38,000
5. 奉讃会創立準備費	0	112,000	△ 112,000
④ 助成金・負担金	80,000	40,000	40,000
1. 助 成 金	65,000	20,000	45,000
2. 負 担 金	15,000	20,000	△ 5,000
⑤ 雑 支 出 金	11,000	23,974	△ 12,974
1. 過年度支出金	10,000	0	10,000
2. 雑 支 出 金	1,000	23,974	△ 22,974
⑥ 予 備 費	33,759	0	33,759
1. 予 備 費	33,759	0	33,759
支 出 合 計	804,759	1,213,634	△ 408,875
次年度繰越金		20,099	

歳 入 の 部			
科 目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 会 費 収 入	413,000	413,000	0
1. 会 費	413,000	413,000	0
鶴見区	37,000	37,000	0
神奈川区	30,000	30,000	0
港北区	57,000	57,000	0
緑区	40,000	40,000	0
西区	28,000	28,000	0
中区	23,000	23,000	0
保土ヶ谷・旭区	28,000	28,000	0
南・港南区	57,000	57,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
金沢区	26,000	26,000	0
戸塚区	60,000	60,000	0
瀬谷区	8,000	8,000	0
② 雑 部 金	360,000	284,000	76,000
1. 雑 入 金	60,000	50,000	10,000
2. 寄付金及繰入金	300,000	234,000	66,000
③ 過年度収入金	0	0	0
1. 会 費 収 入	0	0	0
④ 前年度繰越金	20,099	107,759	△ 87,660
1. 前年度繰越金	20,099	107,759	△ 87,660
合 計	793,099	804,759	△ 11,660
歳 出 の 部			
科 目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 総 務 費	180,000	180,000	0
1. 事務所費	50,000	50,000	0
2. 事務渉外費	30,000	30,000	0
3. 通信交通費	100,000	100,000	0
② 需 要 費	150,000	140,000	10,000
1. 会議費	100,000	100,000	0
2. 慶弔費	50,000	40,000	10,000
③ 事 業 費	360,000	360,000	0
1. 税務墓地委員会費	40,000	30,000	10,000
2. 涅槃法要費	130,000	100,000	30,000
3. 会報発刊費	140,000	130,000	10,000
4. 奉讃会事業協力費	50,000	0	50,000
④ 助成金負担金	85,000	80,000	5,000
1. 助 成 金	65,000	65,000	0
2. 負 担 金	20,000	15,000	5,000
⑤ 雑 支 出 金	11,000	11,000	0
1. 過年度支出金	10,000	10,000	0
2. 雑 支 出 金	1,000	1,000	0
⑥ 予 備 費	7,099	33,759	△ 26,660
1. 予 備 費	7,099	33,759	△ 26,660
合 計	793,099	804,759	△ 11,660

昭和55年5月1日

上記のとおり収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 志 村 慎 吾

昭和55年5月1日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出いたします。

横浜市仏教連合会 会長 志 村 慎 吾

支部だより

金沢区仏教会

金沢区仏教会

55・1・27 柴町金沢園に於いて区仏新年会を兼ね、新年度の綜合事業の計画検討した。

55・2・15 富岡町持明院に於いて涅槃会厳修す。

55・3・2 洲崎町龍華寺に於いて金沢区戦没者慰霊祭を厳修多数の焼香者があった。

55・4・6 第三十四回釈尊降誕奉讃花まつり大会を六浦町光伝寺出発会場とし、泥牛庵を式場として釈尊奉讃会と共催で稚児行列念仏講の奉詠、町内少年少女の鼓笛隊を先頭に盛大裡に催された。

55・5・17 富岡町真言宗御室派持明院へ能登有榮師晋山す。式后能登有兆大僧正の一周忌法要を厳修す。

55・6・8 去る五月十三日に臨濟宗長昌寺住職石沢光道師が遷化され本葬儀がしめやかに行はれた。

55・6・12 金沢釈尊奉讃会並びに、仏教会共催で千葉県の名刹寺院参拝旅行一〇〇名の参加があった。

鶴見区仏教会

(一)鶴見区仏教会と鶴見区釈尊奉讃会の共催にて、釈尊誕生花まつり奉祝法要を昭和二十三年以来毎年開催している。鶴見区内寺院を八ブロックに分け八班の順番をきめ、会場は担当班の中できりきめ、各寺院から奉讃会員を集め、仏教

会員の出仕によって奉修されてい

る。相信徒の参加は年によって異なるが百名乃至五百名である。

(二)鶴見区仏教婦人会主催による川施餓鬼灯笼流し法要には鶴見区仏教会が後援して毎年開催されている。午後六時ごろから大汐になる

日を用がきの日ときめ、広場に施餓鬼祖を設け、相信徒が持ち寄った戒名紙を大小数百個の灯笼の周囲に張ったものを祭壇におかざりし、御詠歌奉詠の中を仏教会員

が入場、仏教会できりきめた「おつとめ」次第によって施餓鬼法要が厳修され、続いて灯笼を積み込んだ船に向けて回向し、船は鶴見川の downstream、潮見橋を静かに上り下りして灯笼を川に流し、船中及び

岸辺に並ぶ講員によって御詠歌が奉詠され、参列者数千人を数え、鶴見区における夏の風物詩となつて

いる。鶴見区では統一した經典が昭和四十六年に制定されている。

戸塚区仏教会

△五十五年四月八日恒例の釈尊降誕花まつりを親縁寺に於て開催、晴天にめぐまれ参会者多数、幼い子供たちがお土産をほたいて一人一人灌仏合掌の姿はほほえましい。法楽に日本舞踊。

保土ヶ谷区仏教会

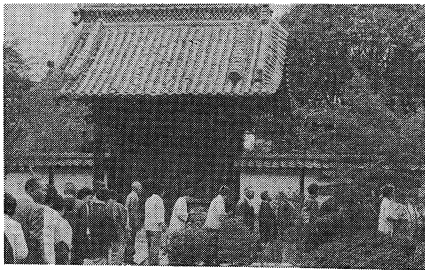
春季仏跡参拝だより、今回は五月八日(木)、山梨県塩山の恵林寺放光寺の参拝を行った。

午前七時半より参り、区内各地をバス六台にてそれぞれ出発、九時半津久井湖畔バスターミナルに全車集合。今回は二百五十名ほどのバスの中は余裕があり、道路も

中央高速を順調に塩山入り、臨濟祭の向岳寺を遙拝で通り越し、恵林寺に十一時到着参拝して真言宗高橋山放光寺で住職の説明をうけて各お堂を廻り、重文国宝級の仏様に対面して感激の内に参拝を終

り、恵林寺前よりふたたびバスの人となり御坂峠より川口湖畔で二時近くなり中食でおなかのすいて大変であった。楽しく食事も終り

籠坂峠、御殿場、東名高速と全員無事、にぎやかに帰浜、いつもながら、喜びと合掌の内に家路についた。



山梨県恵林寺にて



遠藤隆也氏を市仏連顧問弁護士に委嘱

市仏連では多様化する社会で、会員諸師が法律的に悩んだりした場合その手助けとして、本年より顧問弁護士を委嘱した。土地問題相続問題等お困りの節はどうぞ遠慮なく御相談下さい。連絡先は東京都台東区東上野二一八〇七共同ビル五F五一一五 電話〇三二八三二二八一九遠藤法律事務所

松田照豊師

成田山横濱別院主監権大僧正の松田照豊師は去る四月六日五十七才で遷化された。師は就任以来十二年間熱心に勤められ、西区仏教会のためにも役員としてご尽力を頂いた。本葬儀は五月十日横濱別院において施主大本山成田山新勝寺貫主松田照応師で、衆議員議員小此木彦三郎葬儀委員長となり、大導師真言宗智山派管長大僧正上野頼榮師により盛大に行われた。

緑区仏教会長交替す
新任 北田隆海(真言宗観護寺)
緑区小山町一四七
TEL九三一一一七一一四
退任 佐藤秀山(曹洞宗大蔵寺)
緑区中山町六六六

事務日誌

55・1・28	三役会の開催(奉讃会と合同) 於西有寺
55・2・5	常務理事会の開催 於西有寺
55・2・5	奉讃会役員会に参加 於西有寺
55・2・5	県慰霊堂奉仕 中区 仏教会
55・2・16	第五回釈尊涅槃会の開催 於日吉金蔵寺
55・4・5	県慰霊堂奉仕 保土ヶ谷区仏教会
55・4・8	市内六区で花まつり行事の開催
55・4・27	新善光寺(久保山)開創百年祭に参加
55・4・29	随流院(保土ヶ谷)鐘楼落慶式に参加
55・5・1	常務理事会の開催 於西有寺
55・5・1	釈尊奉讃会役員会に参加 於西有寺
55・5・1	第七回総会の開催 於西有寺
55・5・1	第一回釈尊奉讃会総会に参加 於西有寺
55・6・5	県慰霊堂奉仕 戸塚区仏教会
55・6・19	金沢区長昌寺先住石沢光道師本葬に参列
55・6・13	三役会(奉讃会と合同)の開催於西有寺
55・6・19	県仏教会総会に参加 於中区 西有寺
55・6・28	三役会(奉讃会と合同)の開催於西有寺

サケオのキャンプから

南区 興禪寺 市川 浩 子

主催 全日仏青のカンボジア難民
救援隊 第四次隊 参加人数
八名
日程 六月十七日―六月二十四日
キャンプは、サケオ難民キャンプ
丁度「自主的送還」をやっている
時だったので、中に入る許可は
取れなかったのですが、偶然日本
女性の市川れい子さん(唯一人で
ボランティア活動を三カ月もして
いる人)に出会い彼女の助けによ



白服はボランティアの
市川れい子さん

り、中に入る事が出来ました。キ
ャンプの中の様子は一時期よりも
かなり落ち着いているようですが、
中にはじめて入ってみて、何とも
云えなくなりました。写真で見たり
聞いたりよりも実際に目で見ると
同じ人間でありながら、戦争が
どういふ物か考えさせられました
チルドセンターに入り、紙芝居を
やったり日本の歌を歌ったり、パ
ネルシアターをやりました。言葉
は通じませんが子供達は、ここに
こ笑ってよるこんでいた様です。
カボチャの種子を配ってしまし
た。
あまり悲惨な写真は無いのです
が、雨期の様子とか、中の生活状
態が少しは、わかる様な写真があ
るかと思えます。よろしいのを、
どうぞ使して下さい。
カンボジアの人達は日本人に対
してすごく感謝をして、良く我々
の事を理解してくれていると涙を
流していました。日本のかんづめ
が非常においしいとの事です。
又、八月に第五次隊が行くそう
です。その時には、少し衣類を持
って行く約束をして来ましたの
で、御協力をお願い致します。



川島山随流院鐘楼落慶す

横浜駅から相鉄線で十分、小高
い丘の上に西谷浄水場がある。
そのふもとに川島山随流院があ
る。この度、鐘楼が再建され約四
坪の広さと三千数百万円の浄財で
見事完成し四月二十九日東京泉岳
寺方丈はじめ曹洞宗寺院多数出席
のもと落慶式が催された。

能登宥兆師の思い出

西区 仏教会長 佐藤寿応

能登師は昨年四月十七日八十一
歳で遷化された。参与柴田敏夫師
は師の思い出を「市仏連」第九号
に詳しく述べておられる。師は県
市仏教会に大きく貢献し偉大な足
跡を残された方である。私は古い
事は知らないのですが最近の私なりの
思い出を綴って見た。
横浜市内の寺院管理市有墓地、
(三十一ヶ寺三万四千五百坪)につ
いては終戦後問題になってきたの

で、三十二年に当時の市仏連会長
吉本道堅名で横浜市長半井清あて
た正式の訴下げ申請書を出した。
しかしぼう大な土地を簡単に処理
できない問題なので進展しなかつ
た。そこで止むなく四十一年に丁
度能登師の知人の金子鼎一郎氏が
市議会議長になったのを機会に市
役所に陳情することになった。私
は前に都庁に勤めていたので種々
の陳情はあったが坊さんの陳情は
始めてだ。二十人位で団長が能登
師であった。仲々思い切った事を
する方だと感心したが、その時お
目にかかったのが始めてだった。
後日解答するという事で解散し
たが、その後議長から一片のハガ
キ解答で立消えになってしまった
その後五十年に新しい市仏連が
発足し、私は墓地問題専門委員長
を命ぜられた。そこで関係書類を
引継ぐことになりその年の八月に
公式に金沢の持明院に能登師を訪
問した。その前に病気をなされて
いたがそれでもお元気でいろいろ
とご説明をいただいた。

これがご縁で九月には前述の元
市議長の金子氏を紹介して下さつ
た。しかし時代が変つたのでお願
いするのは無理であった。また五
十二年には小田原の墓地問題を調
べる為早川の久翁寺に鈴木敏範師
を訪ねる事になった。師はご病氣
でご自分がお建てになった四階建
の立派な老人ホームに療養の身で
お目にかかっただけで目的は果せ
なかつた。しかし能登師はご老体
にもかかわらず、同道して頂き、
ご自分が手がけたきた仕事に少し
でもお役に立てばというお気持は
本当に有難かつた。その年に大僧
正に昇進なされお祝を申し上げると
大変喜んでおられた。しかし健康
がすぐれず、五十四年に八十一歳
でご遷化なされた。始めてお目に
かかった時、師はこれは大変な仕
事だからよろしく頼むといわれ
た。
私も縁あって引継いだので責任
は感じますが、年がたちすぎてお
り、情勢が違ってきているので簡
単に解決する問題でなく長期戦を
覚悟しなければならぬので切に
関係御寺院のご理解とご協力をお
願ひします。
能登師のご葬儀は盛大でご功績
にふさわしいものでした。ご生前
のご協力を感謝し、心からご冥福
をお祈り申し上げます。
本年は突然国会の解散、総選挙
になり会員諸師もあわただしいう
ちにお盆が来る。編集会も汗だく
で頑張っている。
各支部の活動も年年盛んとなり
お互いに紙上を通してその活動を
知ることができ、仏教行事の理解
も深まりつつある。
釈尊奉讃会も順調にスタートを
切つたが、これからの運営を上手
にするためには各位の協力が絶対
必要である。僧俗一体となって明
日の横浜をきつこう。
市仏連と奉讃会では講演会を催
している。会員諸師のご希望とご
参加をお待ちしている。

編 集 後 記